注） 作業所長以外の方の氏名および所属会社については、
福島労働局の編集により、□で伏せております。

（仮称）白河市市民文化会館建設事業建築工事における職長会奮戦報告
―　熱破冷突撃隊による熱中症防止活動他　―

大成・兼子組特定建設工事共同企業体
作業所長　高倉　裕幸

１．工事概要

発注者：福島県白河市長　鈴木和夫殿
工　期：2014 年 2 月 3 日～2016 年 8 月 31 日（延べ 31 ヶ月）
設計監理：㈱日本設計
構造・階数：ＳＲＣ造、地下ＲＣ造、一部Ｓ造　地下１階　地上４階
延床面積：9,783.29 ㎡、最高高さ：30.98m

２．本プロジェクトの特徴

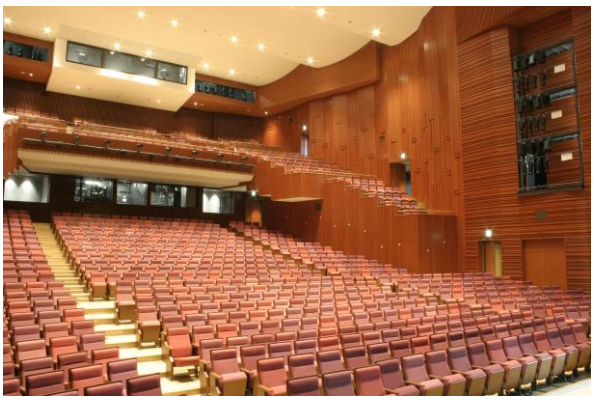
本案件は、福島県白河市の市民会館の老朽化に伴い計画された市民文化会館の新設工事です。

意匠上の特色として、6,000 ㎡を超えるコンクリート化粧打ち放し仕上げに加え、小幅の杉板目の化粧打ち放し仕上げがあります。

また、白河に残された歴史的建造物の要素を取り入れ、白河の歴史を継承して未来を築くシンボリックな景観となる切妻形式の大屋根と庇が施されています。

当施設は、大ホールと小ホールの二つのホールで構成されており、それぞれ 1,104 席、321 席を有しています。大ホールは客席が舞台を取り囲む形状として、演者と観客の一体を生むホールであり、小ホールは客席床を転換することで様々な運用が可能なホールとなっています。

≪写真-1　外装　完成写真≫



≪写真-2　大ホール　完成写真≫

完成写真の通り、平面、立面において同じ作り込みの部位が無い建屋の建設です。また、震災以後の技能労働者不足も顕著である中、多岐にわたる職種の作業員が、複雑な作業手順を理解したうえで、相互のコミュニケーションを良く取り、別途工事を含め全員一致団結の上で工事を進めることが安全管理上重要な課題となります。

３．職長会活動の狙い

先の震災以後の技能労働者不足により、近隣市町村だけでは要員確保が困難なため、種々の工種において他県の協力業者を採用し工事を進める必要がありました。

特に型枠工は一日当たり 60 人ほどの確保のため、宮城、栃木、東京などから要員確保を行いました。しかし、その中には初めて契約する業者なども含まれていることから、別途工事を含め職種を超えた人間関係の構築と複雑な作業手順の相互理解のためにも、日々のコミュニケーションは必要不可欠でした。

当ＪＶはその『ツール』として、職長会を現場開始当初より発足しました。

取組目標として、①安全管理、②環境管理、③衛生管理、④駐車場管理、及び⑤複雑な建物のものづくりを楽しもう！の５項目を掲げました。

そのための場所として、休憩所、会議室とは別に『職長会室』を設け、普段よりその場所に集まることで、仲間意識を高め、ものづくりのための問題を解決することへの目的意識を一つにすることで、職長会活動がやり易くなることを期待しました。

併せて技能労働者不足による未経験者や、高齢者の就労増加が予想されるため、声掛けや指差呼称といった不安全行動撲滅活動を率先して行うリーダー組織としての役割を担うこととしました。

４．活動内容

職長会による活動取り組みを以下に説明します。

① 取組活動１：声掛けリーダー選任
② 取組活動２：熱中症防止活動
③ 取組活動３：昼食を一緒に取り、職長会とコミュニケーション
④ 取組活動４：職長会　各委員会活動
⑤ 取組活動５：災害防止、緊張感の向上を目指して
⑥ 取組活動６：難しい建物だからこそ、ものづくりを仲間とともに楽しもう！

■取組活動１　**【声掛けリーダー選任】**

声掛けリーダーは現場の『**おせっかい役**』です。
不安全行動を見かけた場合や、未経験者に声掛けを行い危険を気付かせます。

声掛けリーダーは以下の項目を実行します。

① 自社、他社を問わず、安全帯を使用してないなどの状態を見かけた場合『**安全帯を使って**』と声掛けし危険を気付かせる

② 経験の浅い作業員には『**作業の内容が判っているか**』と声を掛ける

③ 体調の悪そうな作業員には『**体調は大丈夫か**』と声を掛ける

④ **指差呼称**を率先して実施する（ＪＶ工事担当者も一緒に実施）

⑤ 大きな声で**挨拶**を励行する（ＪＶ工事担当者も一緒に実施）

⑥ 上記顔写真入りポスターを場内各所へ掲示する

■取組活動２　**【熱中症防止活動】**

当プロジェクトが熱中症防止に取組む理由として、

① 白河市は夏場において３０℃を越える

② 東北地方の就労者が多数

③ 特に青森県・岩手県・秋田県の方は暑さに弱い（某労働基準監督署署長からの言葉）

④ ベテラン＝高齢の作業員に対する体調管理のフォロー

以上の前提を克服することとしました。

その前提を克服するために、職長会組織のうち、熱中症防止対策委員会を設立し、『**熱破冷（あっぱれ）突撃隊**』（職長会造語）とネーミングしました。

熱中症防止に向けて働く仲間に声を掛け、また塩飴配布や経口補水液などを携帯・巡視し、万一のその恐れがある作業員を発見した場合、初動対応を行うパトロールチームです。

≪写真-3　熱破冷突撃隊　≫

≪写真-4　ＷＢＧＴによる計測実施≫

≪写真-5　熱塩飴配布状況≫

≪写真-6　熱中症危険度の見える化≫

以下は、**『熱破冷（あっぱれ）突撃隊』**の活動内容です。

① 二人一組となり、午前・午後それぞれ定時に巡回巡視（曜日交代制）
② ミストファンの維持管理、水補給
③ ＷＢＧＴ（湿球黒球温度指数計）による計測（8:30、10:30、14:30）
④ 計測した温度、熱中症危険度を朝礼広場に表示
⑤ 10 時休憩後、及び昼礼後の熱中症対策キットを携帯したパトロールと、作業員への声掛けや塩飴等の配布
⑥ 体調の悪そうな作業員を見掛けたら一呼吸置かせて、休憩を取らせる（冷所へ同行）
⑦ 熱中症と思われる状態と判断した場合、ＪＶへ報告するとともに、携帯の経口補水液などを与え、休憩所へ同行するなどの初動行動を取る

■取組活動３　**【昼食を一緒に取り、職長会とコミュニケーション】**

毎週木曜日の昼休みに、各委員会の活動状況及び安全パトロールの結果報告を兼ねて合同食事会を実施しています。ＪＶ職員及び職長会メンバーが全員参加します。

≪写真-7　合同昼食会状況≫

主たる討議内容は、以下の通りです。

① 各委員会活動状況の発表
② 安全委員会のパトロール結果発表、是正対策案の討議
③ 新規メンバー自己紹介
④ 職長会イベントの企画、立案

⇒ＪＶ職員と共に餅つき大会（H27.1.22 開催）、

⇒ＪＶ職員と共に福島市わらじ祭りへの参加（山車押し競技参加）

⑤　職長会シンボルマークの制定

≪写真-8　シンボルマーク≫

⑥　安全模範者、優良者を選定、表彰

⇒主として、職長をサポートする方や若手作業員などを対象とし、毎月安全大会時に表彰

⑦　安全スローガンの選定

⇒優秀作『目に見える形で確認できますか』、『上下作業　一声確認していますか？』

⑧　季節感のある旬の弁当の提供（一例として、土用の丑の日に鰻弁当）

■取組活動４　【職長会　各委員会活動】

４－１　安全委員会

①　毎週木曜日安全パトロール（ＪＶ安全当番同行）

大ホール、小ホールに分かれ、あらかじめ点検項目を定めたパトロールの実施

≪写真-9 活動状況≫

４－２　環境委員会

①　近隣環境、及び美化対応（仮囲い沿いや朝礼台に花植え）

②　廃棄物の分別確認、指導

≪写真-10 活動状況≫

４－３　衛生委員会

①　トイレ使用状況確認（紙補充、ロール芯放置点検）

②　喫煙場整備及び吸い殻消火確認

≪写真-11 活動状況≫

４－４　外部（駐車場）委員会

①　駐車場までの公道清掃実施

②　冬期間の融雪、及び除氷による転倒防止対応

≪写真-12 活動状況≫

４-５　職長会組織表　及び　各委員会一覧

≪写真-13　職長組織表≫

■取組活動５　災害防止、緊張感の向上を目指して

５-１　『まず飲め運動実施中！』　による熱中症防止活動

毎朝礼、昼礼後にコップ一杯のスポーツ系飲料を現場で働く仲間全員に提供し、現場に送り出します。

また、熱中症防止の塩飴も提供します。

（作業員からは元気に『暑さに負けないぞ』『さぁ、頑張るぞ』の声が上がります！）

時にはトマトも提供し熱冷ましを実施しました。

≪写真-14 まず飲め運動実施状況≫

≪写真-15 熱冷ましトマト提供≫

５－２　熱中症防止に向けた環境面の活動

安全朝礼会場にポーチュラカをプランターに植えて設置しました。

（ポーチュラカは、夏の強い日差しにも負けずに成長する初心者でも育てやすい植物、かつ日光が大好きな草花で「いつも元気」という花言葉です。暑い時期に綺麗な花弁を開き、働く仲間に『熱中症に注意して下さい』と訴え掛けているかのようです）

≪写真-16　ポーチュラカ≫

５－３　緊張感の向上を目指して！

朝礼時の緊張感向上に向けた取組として以下の３点を実施しました。

①　『カエル』活動…例として「危険の芽を安全にカエル」と発表

②　『本日の決意表明』は「私は高所作業時安全帯使用を守ります」などを宣言

③　新規入場者による『自己紹介』

氏名、会社名、職種、年齢、その職種での経験年数を発表

（東北人は恥ずかしがり屋が多い中、頑張って発表）

≪写真-17 新規入場者による自己紹介≫

≪写真-18『カエル』発表状況≫

■取組活動６　難しい建物だからこそ、ものづくりを仲間とともに楽しもう！

≪写真-19　職長会団結式　写真≫

職長会の更なる活動として、

① 漢気（おとこぎ）委員会（当職長会の造語）

困り事や支援要望事項が有った場合に、直ちに行動を起こす活動

安全通路が不明になれば、床に通路の線引きを行う、或いは清掃が必要な部分があれば一斉清掃などを利用し集中的に行うなど、現場で起こる問題に対するお助け活動を実施します。また、新規入場者や、経験の無い作業員に積極的に声掛けを行い、立入禁止エリアに近づくことが無いよう、また早期に現場に馴染めるよう支援活動を実施していきます。

② 地域行事への参加

白河市提灯祭り、福島市わらじ祭りなどへの積極的参加。（チーム力の高まり）

③ インターンシップ学生の積極的な受け入れ

４名の職場体験学生を招き、うち２名が当社への入社内定！

５．職長会活動による効果

① 取組みの成果として⇒休業災害発生ゼロ

② 熱中症発生ゼロ

③ 毎日の安全衛生関係打合せにおいて活発な議論の中、自主的に立ち入り禁止箇所及び安全通路を決定し、対応することが出来る組織の構築

④ 福島県内の他社施工現場（某大学病院作業所）より職長会活動見学

⑤ 福島県内の協力業者事業主及び安全インストラクター教育会時に活動内容説明

⑥ 大成建設東北支店安全衛生協力会幹部視察、職長会活動見学

⑦ 大成建設㈱の社内職長会活動取り組み教育用教材への協力（撮影とも）

≪写真-20　職長会活動取材状況写真≫

2015 年 12 月より　社内教育向けＤＶＤ及び動画の配信（本社　安全本部より全支店へ）

左より【熱中症ゼロへみんなで防げ】　【声掛けで仲間を守れ】　【絆で結ばれた職長会】

⑧ 作業員全員による「お疲れ様です！」、「ご安全に！」などのまずは声を出しやすい、声返しする前向きな雰囲気。

⑨ 上記の一連の活動が認められ、2016 年 7 月社内の安全功労賞並びに安全衛生協力会連合会会長賞を授与

さらに、2015 年 12 月には、社内教育向けＤＶＤ及び動画の配信（本社　安全部より全支店へ）されました。

≪写真-21　表彰式にて村田社長と共に≫　　≪写真-22　職長会幹部スタッフ授与≫

６．まとめ

職長会運営上の要点を以下に整理します。

1）現場開始当初から発足、運営を始める
2）職長会幹部の変更無しがベター
3）職長会室を設け、拠点化
4）社員の関心度合いを高める
5）予算化（職長会費の確保）
6）自発的（やらされている感の無い）組織にするために、最初のルールは最低限
7）まずはやり始める　⇒　後から入場の作業員たちはそのしきたりに従う傾向
8）何でも言える雰囲気の醸成

■『自発的組織』、『現場の良好なコミュニケーションの構築』が、「労働災害ゼロ」を目指して取り組む当社の重要なキーワードである。

その目標達成に向けて組織した職長会が狙い通り機能したことにより、安全成績のみならず躯体精度、仕上げの美しさなどの品質面、予定通りに工事が進むなどの工程面にも良い結果をもたらしました。

一つの目的のために結集した働く仲間同士が、さまざまな状況を克服し、目標の達成を果たしましたが、この白河市市民文化会館建設事業でしか無し得ないことではないと思います。

この職長会活動を白河市市民文化会館建設事業という一つの現場の成果に留まらず、携わった者全てが、今後担当する現場でも活かしてもらい、労働災害ゼロへ向けた礎となることを信じています。